



製剤種差検討会

「製剤設計における種差の問題検討会」

第4回事例報告会

日時：2017年11月2日（金）10:00～17:50
会場：キャンパスプラザ京都 5階第1講義室

2016年4月に発足した製剤種差検討会での事例報告は今回で4回目を迎えました。41団体から82名が参加し、4例の事例報告と総合討論がなされました。前回同様、今回も討論時間が足りなくなるぐらい白熱した議論が交わされ、盛況のうちに会を終えることができました。



▲代表世話人あいさつ
原島秀吉先生
(北海道大学大学院)



▲吉松宏倫先生
(科研製薬)



▲木下真宏先生
(大鵬薬品工業)

事例報告① 吉松宏倫先生

- 実験動物及びヒトにおける経皮投与型製剤からの薬物吸収性の比較検討

事例報告② 木下真宏先生

- 難溶性薬物を含む製剤の生物学的同等性を考慮したin vitro/in vivo評価について



▲野村明徳先生
(DSファーマアニマルヘルス)



▲鈴木卓也先生
(エーザイ)



▲菊池寛先生
(エーザイ)

事例報告③ 野村明徳先生

- ヒト用抗てんかん薬(ゾニサミド)のイヌへの応用開発におけるヒトとイヌの比較

事例報告④ 鈴木卓也先生

- ドキシル投与時の手足症候群に関する動物間種差

多くの参加者から積極的な意見や質問が寄せられ、活発な議論が交わされました。



報告会後に行われた情報交換会(参加者数69名)では交流の輪が広がりました。



第5回事例報告会は2月に開催の予定です(開催地:東京)。

レイアウト:
鑄物 将明(塩野義製薬)
杉原 光(小野薬品工業)